

# ふじさん

fujijoho group monthly magazine

平成30年指針

**富士情報**

進化的成長

[今月のひとこと]

品 位

- 車いす清掃のボランティア活動に参加
- 富士山マラソンで13回目の完走一丸久・宮下常務
- インフルエンザ予防



紅葉の河口湖

写真提供：富士河口湖町 観光課



今月のひとこと

## 品 位

社 長 渡 辺 直 企

今年のハロウィンも渋谷に多くの人が集まりました。一部の人騒ぎ、軽トラックを横転させたり、ラーメン店の券売機に水を流し込み故障させたりしたことが報道されました。多くのごみが放置されるなどマナーの面で課題があります。10月20日の「ふじさわ江の島花火大会」では、置き去りにされたゴミの量は一昨年の3倍となる1トン。内訳は可燃ゴミ6割、不燃ゴミ4割で、特にレジヤシートが多かった。ゴミステーションに置かれたゴミも一昨年の2倍の150キロだったそうです。大会の途中から大雨に見舞われ、多くの来場者は緊急避難した影響が大きいとは思いますが、マナーという面では非常に問題があると思います。

サッカーW杯ロシア大会でコロンビアに歴史的勝利をおさめた試合でも、日本のサポーターたちは試合の後、興奮に我を忘れることなく、持参した大きなゴミ袋を手に持ちスタンドの清掃をしました。BBCやロイターなど海外のメディアは日本人のマナーを称える報道をしていました。

2011年の東日本大震災の時の日本人の行動について『ハーバード白熱教室』で有名なマイケル・サンデル教授は「あれだけの震災に遭いながらパニックも起こさず、(2005年に米国南部を襲った)ハリケーン・カトリーナの時に見られた強盗も便乗値上げもなかったことは驚きだった」と称賛していました。

どれも同じ日本人の行動ですが、非常に極端な印象を受けます。国民性をジョークで表現するエスニックジョークがあります。『沈没船ジョーク』が有名です。ある大型客船が沈没しそうになり、救助ボートの定員以上の乗客がいて若い男性たちには移乗を諦めてもらうしかありません。アメリカ人には「それであなたは英雄になれる」。イギリス人には「それが紳士たるものの勤めです」。ドイツ人には「それがルールになっています」。イタリア人には「あとで女性にうんとモテる」。日本人には「他の方もそうなっています」。と言って説得するというジョークです。結構言い得ていると感じます。「赤信号、みんなで渡れば怖くない」という言葉があるように、我々は集団に流されやすい気質を持っているので、品位を落とさないよう注意する必要があると思います。

一方、仕事に対する評価は容易ではありません。マーケットからは金銭面(価格)で評価がされます。これは必ずしも本質的な評価がなされているわけではなく、希少性で高評価(価格)になることが多くあります。仕事面で成果が出たとしても一時の評価であり、実力を表しているわけではない点に注意が必要です。アインシュタインは「成功する人間になろうとせず、むしろ価値ある人間になろうとせよ。」と言っています。ここでいう価値は仕事においては実務能力が重要ですが、倫理観、特に品位も実務能力以上に重要です。これまで多様な国、地域、業種の方と仕事を通じ接してきました。これらの観点で感銘を受けることが何度もあり、そのたびに自分の未熟さを痛感します。これらの能力は一朝一夕に身につくものではなく、日ごろからの努力の賜物で、他人から見えるのは氷山の一角です。つつい見えている差だけ注目しがちですが、未熟な者が近いレベルに達するのは見えている差の何倍もの努力の蓄積が必要だと思います。色々なニュースの中の悪い面を反面教師として理想とする人や組織に近づけるようこれからも価値を高めるようにしていきたいと思います。

## 車いす清掃のボランティア活動に参加



11月1日に損保ジャパン日本興亜、JSA中核会、AIRオートクラブが主催の車いす清掃のボランティア活動が行われ、丸久から花田課長とともに参加しました。

会場は韮崎市の「あけぼの医療福祉センター」で、約50人の参加者が入所者の車いす清掃を行いました。また、清掃後は入所者の皆さまとの交流を深めるためにビンゴ大会も開催され充実した一日でした。

この活動は毎年行われるので、また来年を楽しみに仕事に励んでいきたいと思います。

(丸久・渡邊航平)

## 富士山マラソンで13回目の完走

丸久・宮下啓三常務

11月25日に「第7回富士山マラソン」の河口湖と西湖の湖畔をまわる42.195kmのフルマラソンと10kmのチャリティーファンランが行われました。雄大な富士山と紅葉を楽しめる大会として市民ランナーにも人気の大会で、今回も海外40カ国を含め約1万人が参加して行われました。

今年も丸久・宮下常務がフルマラソンに挑戦し見事に完走、名称の変わる前の「河口湖日刊スポーツマラソン」を含めると13回目の完走になります。

宮下常務は「今回は練習不足で少し不安はありましたが、快晴で風もない絶好のコンディションに恵まれ、無事に完走できました。もちろん来年も挑戦します」とのことです。



### ○インフルエンザ予防対策

今年もインフルエンザの流行期に入りました。日ごろから「感染しない」「感染させない」を念頭に下記の予防策を実行してください。

#### 1) 流行前のワクチン接種

ワクチンは感染後に発症するのを低減させ、発症した場合にも重症化防止に有効です。

#### 2) 飛沫感染対策としての咳エチケット

主な感染経路は咳やくしゃみの際の飛沫感染です。咳エチケットを心掛けてください。

#### 3) 外出後の手洗い等

流水、石鹸やアルコール製剤による手洗いを

こまめに実行してください。

#### 4) 適度な湿度の保持

加湿器などで適切な湿度に保ってください。

#### 5) 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取

#### 6) 人混みや繁華街への外出を控える

今月の表紙

### ～紅葉の河口湖～

河口湖北岸の河口湖美術館通りに古木のもみじが約60本並ぶ「もみじ回廊」があります。11月23日まで、この回廊をメイン会場に「富士河口湖紅葉まつり」が行われ、期間中は22時までライトアップされ、多くの観光客でにぎわいました。

冬が駆け足でやってきます。今のうちにスタッドレスタイヤを点検しておきましょう。保管の状態では思わぬ劣化が進んでいる場合もあります。昨年まで使ったタイヤをもう一度点検してみましょう。丸久が提携しているオートビックFUJIでは国産スタッドレスタイヤを特別価格で販売しています。お気軽にご相談ください。

お問い合わせは 丸 久 ハ 電話：0555-24-2341 メール：marukyu@ag.sjnk.co.jp



私の趣味  
No.470

### 息子と過ごす週末の野球

齋藤 忠 幸

今まではプロ野球の観戦に時々家族で行くくらいでした。ところが、8歳になった息子から「野球を始めたい」とお願いされ、その年は平日に開校している野球塾に妻が連れて行っていました。1年通っていると地元の野球チームに関心を持ち始め、毎週末、私が付き添いで連れていったのがきっかけでした。



野球経験が無い私は、息子の練習を見守るだけのはずが、半年もすると「ボール拾いだけでも」と練習への参加を促され、その時に安易に引き受けてしまい、子供と一緒に土・日・祝日はチーム練習や試合にまで足を運ぶようになりました。

始めの頃は、練習時間は午前か午後のどちらか約3時間。低学年や始めたばかりの子は暴投が多く、懸命に走って捕る、しゃがんで構える、立ち上がり投げ返す、時には足が滑り転倒する事も。ボール拾いくらいと思っていましたが、翌日はまさかの筋肉痛。しかし、息子は父親と一緒に通う事が嬉しい様子で、その笑顔を見ると私自身も楽しくなり、痛いことも気にならなくさせます。

しばらくすると、正式なコーチへと依頼され驚きました。楽しくなり始めてるとはいえ、野球未経験でも大丈夫なのかと不安もよぎりましたが、周囲からのオファーや息子の笑顔、今までどの帽子も全く似合わなかったのに「チーム帽子は似合う」と妻の一言から嬉しくなり、これも何かの縁と感じ正式に引受けました。

コーチとなれば、審判を務めることも多い為、チームのお父さんコーチ数名と審判講習会に参加しました。すると講習を受けてからは、審判の発言や動作に注目したり、野球規則の本を熟読するなど、今までとは違った楽しみも増えました。試合があれば審判、ベンチではスコアの記録も行い、試合の後は監督や他のコーチからのお誘い（飲み会）も時々あり帰宅は深夜になる事も。今ではどっぷり野球にはまっています。

最近では、練習時間も朝から夕方までとなり、息子のプレーを間近で見守り応援していると、息子の活躍で勝利した時には、不覚にもベンチで子供達と共に感動で涙がこぼれる事も。その息子はまだ10歳。あと数年は、子供と共に泣き笑い野球を満喫出来ると思うと、大変な事もありますが、息子と通う週末の野球が楽しみとなっています。

(エコー総合補償サービス(株) 業務グループ 主任)